

イコラムイ

シニアアンサンブルのための楽器知識

〔17〕オールドバイオリン その1

楽器は古くなれば値段が下がるのが通常ですが、逆に上がる不思議な楽器があります。

それがオールドバイオリンです。まずバイオリン (Vn) 作りの簡単な歴史からお話します。

☆Vnの生い立ち：1520～1650年

Vnは1520年ごろイタリア北部で生まれたと言われてい
ます。弦楽器で唯一の魂柱（表板と裏板の中央部に立っ
ている小さな支柱）を含めて誰が考えたのかわかってい
ません。当初から形状が定まらず職人は色々なVnを受注
しては製作販売していたようです。

☆Vnが管弦楽器の女王様になる：1650～1800年

1650年頃、イタリアのクレモナにニコロ・アマティ、
ドイツ北部にヤコブ・スタイナーという 名工が現れ、現
在のものにほぼ近いVnを作り、王侯貴族や宮廷音楽師た
ちの人氣が急騰し、バッハやビバルディほかの作曲家たち
もVnの名曲を作り合奏が盛んになります。

ニコロ・アマティはストラディバリやガルネリ、ほか優
れた弟子を育て上げ、特にこの2人は師匠のVn よりも表
板のふくらみの少ないVnを作り、19世紀に入り、このモ
デルが一番高く評価されるようになります。

この他、クレモナにはガダニーニファミリーやガリアー
ノファミリーなど最近、人氣が上昇中の名工が輩出し、
黄金時代になります。この時代のVnをバロックバイオリ
ンと呼んでいます。

☆音楽が一般市民中心に変わりモダンバイオリ ンの時代となる：1800～1900年

18世紀末のフランス革命やナポレオンの出現は大きな
社会変動を起し音楽は宮殿や寺院が中心から一般の市民
対象のホールに代わり、会場も広くなります。

従来のクレモナのバロックバイオリンでは音量が不足
し、フランスのパリを中心に登場したモダンバイオリンの
人氣が高まります。モダンバイオリンは現在私たちが使用
している物と全く同じで、バロックVnに較べて

①音量を上げるようにバス・バー（表板の裏に取り付けた
補強棒）を太く長くし、魂柱を太くした。又、駒を高く
し、弦の張力も強くした。

②音域を広げるため指盤を長くし1弦で2オクターブ弾け
るようにした。又、ネックの角度も少し前下がりにして弾
きやすくした。

③パリにトルテという弓づくりの天才が出現して、それま
での単なる弓を逆反りにして長くしたので、強弱が鮮明に
出せたり、弓操作により音楽が大きく代わった。

従って世界のVnマニアはフランスのモダンバイオリンを
買い求めるようになるが、音色がイマイチのため一流奏者
はこれを敬遠しクレモナ製のバロックVnのモダンVnへの
改造をパリなどフランスの業者に依頼するようになった。

彼らは改造を大変上手にこなしたが、これらを
サンプルにして模造品を大量に作り売捌いた。中
にはストラディバリのレットルで売られたものも多
かった。



この改造後に一番よく鳴ったのがストラディバリ
とガルネリでそれまでのアマティやスタイナーが占
めていたトップの座が入れ替わったのである。アマ
ティやスタイナーは中高音は甘美ですばらしいが、
低音とくにG線の鳴りでストラディやガルネリより
も少し劣るという評価である。なお、フランスの
業者が売捌いた模造品は作りが非常に巧妙のため、
世界の市場にニセモノとして出回り色々トラブルを
起こしている。これらを鑑定できる業者は非常に
少なく、日本には残念ながらいない。イギリスの
ヒル商会やアメリカのウィリッツァー商会が鑑定書
を発行していたようだが、鑑定士の加齢によって最
近の情報はわからない。

クレモナを中心とするバロックVnをモダンVnに
改造した物をオールドVnと呼び、安くても1,000万
円以上で売買されている。

☆工業生産と個人制作の共存時代

1900～現在

戦前、戦後にかけて世界的な需要の高まりと共
に工業生産されるようになった。Vn作りに歴史の
あるドイツを中心に近年では日本、ルーマニア、中
国等である。これらは価格も安価のため逆に一般
庶民の需要を創造している。

モダンVnで一世を風靡したフランスは戦災で
やゝ勢いが弱くなったが、弓の生産販売は世界一
である。一方、個人の工房による手工製の製造販
売は、上海・東京のVn製作学校やクレモナ、ドイ
ツの個人の工房での養成などで近年盛んになり、国
際的な製作コンクールも盛んに開かれ、年々レベ
ルが向上している。価格帯はメーカー品の2～3倍
と上昇傾向にある。

次回はその2、ストラディバリウスなど詳しい説明
をします。

（全シ連 岡村、つくばSE 小泉安治氏助言）